

全国学力・学習状況調査において比較的良好な結果を示した教育委員会・学校等における教育施策・教育指導等の特徴に関する調査研究（早稲田大学）の概要

分析の視点

全国学力・学習状況調査において比較的良好な結果を示した秋田県、福井県の教育施策・指導等の特徴にはどのようなものがみられるか



分析方法：

- ①全国学力・学習状況調査のデータを用いて、秋田・福井県と全国を比較し、学校経営の在り方、学習指導の特徴、そして子どもの学習活動において学力向上に効果的な取組の特徴を明らかにする。
- ②秋田・福井県の教育委員会及び小・中学校への訪問調査を実施することによって、学力向上に効果的な取組事例を収集するとともに、その具体的な特徴を明らかにする。
- ③データ分析、訪問調査の両面から、秋田・福井県が学力調査において高い成果を上げてきた要因や学力の高さの特徴を明らかにする。

分析結果と適用可能性

①秋田県、福井県の学力の高さを生み出している共通要因として、下記の6つの要因が存在していることが明らかになった。

- 1) 教員の授業力向上に対する教育行政の積極的で計画的な指導や支援
- 2) 学校の外部の組織・団体の積極的な働きかけと研究活動の推進
- 3) 学校における管理職と教員の協力関係と教員全員の共通理解に基づく熱心な学習指導
- 4) 児童生徒の素直さとまじめさ
- 5) 家庭の安定と家庭の教育力の均質な高さ
- 6) 厳しい自然を生き抜く勤勉で連帯感のある地域や風土

※両県の児童生徒の学力の高さは、教育委員会や教員の取組に独自性があるというよりも、各学校における教員が協力し合って、よりよい授業を求めて研究し、効果が上がるまで徹底的に実践していることによるものと考えられる。

②共通要因がある一方で、各県の独自性も明らかになった。

- 1) 歴史的経緯の違い
 - ・昭和40年代には低かった児童生徒の学力水準が、今日では高い学力水準にある（秋田）
 - ・一貫して全国でトップレベルの学力水準を維持（福井）
- 2) 学力向上のリーダーシップの違い
 - ・教育改革や教員の授業力向上の施策を、県教育委員会のリーダーシップのもとに計画的に実施（秋田）
 - ・教員の自主的な研究組織や教員OB、校長会などの外部組織が主導（福井）
- 3) 学力の分布状況や児童生徒質問紙調査の結果の違い
 - ・福井県と比較すると、学校単位で集計した児童生徒の学力の分散が大きい（秋田）
 - ・学校単位で集計した児童生徒の学力は県平均値の付近に集中しており、分散が小さい（福井）
- 4) 拠点校方式と学校平準化方式の違い
 - ・市町村内に拠点校を設定、そこで育てられた力量の高い教員を他校へ分散配置（秋田）
 - ・各学校の取組を平準化して均質な教育を実践（福井）
- 5) 今後の課題の違い
 - ・大学進学実績の低さ（秋田）
 - ・不登校率の高さ（特に、近年の高等学校における不登校率の上昇）（福井）